

希望の光

森野 水琴

地味な感じの女が、とある建物に入っていく。
女は仕事帰りなのか平日の夕方に見かける光景である。

ある満月の夜、その建物から雪のように白い肌の女性が出てきた。
入れ違いに何人か建物に入っていく。何かの会合があるらしい。

しばらくして白い肌の女性が建物に一人の男をいざなっていく。

会合が終わって人々が帰っていくが、地味な感じの女性も白い肌の女性も建物にとどまっているらしい。

夜が更けても、それ以上は誰も出てこないので建物をあとにした。

翌日の夕方に、地味な感じの女が帰ってきた。この建物に寝泊まりしているらしい。

雪のように白い肌の女性には満月の夜だけ出逢う。
まるで地味な感じの女が月からの使者に化けているみたいだ。

月光が白い肌の女性の希望を照らす